

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691000184
法人名	株式会社デイ・フロンティア
事業所名	グループホーム南砺星
所在地	南砺市中ノ江195-1
自己評価作成日	令和2年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年2月9日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念は「安心・安全・愛される温かい『住まい』」としています。建物の外観、内装、飾りつけは明るく、落ち着きやすい環境を整えています。スタッフは、利用者と共に一日一日を大切に作り上げ、一人ひとりの希望や意向を尊重した支援を大切にし、柔軟な対応ができるケアを目指しています。特に今年は畑を強化し、たくさんの野菜を植え、入居者中心に収穫をして頂いたりしています。
また、課題でもある地域との交流は新型コロナウイルスの影響により積極的に行えておらず、玄関先に自販機を設置し、ご近所や利用者にご利用していただいている程度であり、次年度以降の目標としたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

一般住宅のような外観で、2つのユニットが中庭を挟み平屋建てとなっている。中庭は居間・食堂空間に面しているため、天候の良い時には中庭で過ごすこともでき、家庭的な雰囲気のある落ち着いた内装に加え、季節感のある装飾の工夫がある。事業所の取り組みとして「夢プロジェクト（利用者がしたいと思う願いを叶える）」があり、どんな夢でもあきらめることなく、利用者が納得できるまで共にチャレンジしている。今年度はコロナ禍のため実施できていないが、例年はドライブや買い物等を通し、その日その時の利用者の希望に応じて家庭生活と同じように気軽に出かけるなど、利用者の尊厳ある暮らしの支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し玄関、居間に掲示してあります。一部の書類にも入れ、浸透を図っています。日々のケアの中で実践できるようにミーティングでも復唱しています。	理念は開設時に代表者と立ち上げ時の職員が策定し、施設内の掲示の他、職員が常に目にする業務日誌、外部の方も目にする機会のある事業所名の封筒、地域運営推進会議の資料等に記載し周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、事業所としては回覧板での情報の共有のみとさせていただきます。利用者が個別にて朝の散歩や畑を通じての付き合い(トマトの苗を貰ったり)は、ある様子でした。	平時は、地域で開催される行事「敬老会」「虫おくり太鼓」等に参加し、地域の方とも顔の見える関係性がある。今年度はコロナ禍のため行事等は開催されていないが、利用者の散歩中に近所の方とお付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通年にご家族様の面会や運営推進会議時に認知症の啓発や介護相談などを行っていますが、今年新型コロナウイルスの感染拡大の影響で面会の全面禁止を行っており地域の方やご家族様には実践できておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年事業所内のみでの開催となり、職員同士での情報共有や意見交換等を行い、事業所の運営に活かしています。	運営推進会議開催時には、参加者からの意見や提案を反映している。地域内の雪対策(ホーム職員、地域住民相互の除雪対策)への取り組みも、運営推進会議を通して活動が生まれ、継続されている。その他、利用者の楽しみづくりのボランティアを招いてはという提案に対して、慰問ボランティアを探すなど意見を活かした取り組みを行っている。	運営推進委員会の内容を家族関係者に案内できる仕組みづくりを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネジャーが行政への報告、相談を通して日常的に連携を取っています。家族の希望で認定調査の立ち会いや申請代行当を行い、協力体制を築いています。	地域運営推進会議を通して行政の担当者とは協力関係ができています。コロナ禍においては、面会禁止等の対応について相談し、他事業所の対応を教えてもらい参考にした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に勉強会を開催し、何故身体拘束してはいけないのかを学習している。また、スピーチロックについてもその都度注意合っています。	身体拘束廃止委員会を設置し、2カ月に1度開催。年1回の研修の他、身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備し日頃から利用者の行動制限につながるような関わりを行っていないか意識し、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関やユニット出入口に施錠はされていない。散歩は一人で出かけたという思いを尊重し、安全に配慮しながら叶えている。	2カ月に1度定期で開催されている委員会議事録を、誰が見ても分かりやすい記載内容にされることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで権利擁護について学ぶ機会を持っています。虐待が見過ごされることがないように注意を払い、疑われるケースがある際には管理者やケアマネジャーに報告するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士による勉強会を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により開催できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除は双方の同意を大前提としています。対話を大切にし、内容に変更がある際には個別に柔軟に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常や家族面会時にヒヤリングを含めたコミュニケーションを積極的に図っています。ご意見があった場合には、ミーティングで情報を共有、検討し、入居者とその家族に対応するようにしています。	家族からの意見や要望はミーティング時に検討し、ミーティング報告書や申し送りノートにて情報共有ができる取り組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務希望や休日希望は施設長が聞き、勤務体制に反映させています。事業所は希望する外部研修や資格取得は、施設長会議で検討されることとなっています。	職員から提案や要望があれば相談しやすい雰囲気があり、管理者は職員の要望を代表に伝え対応できている。外部研修参加の要望など受講要件、受講資格、費用負担について検討する仕組みがあり、職員は目標を持ち働ける環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い、評価の賞与への反映と支給時に評価通達を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は新型コロナウイルスの影響により外部研修は皆無で、事業所内でのミーティングを主とし、現場でその都度管理者からアドバイスや実践を通し教育しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は新型コロナウイルスの影響により、同業者との交流は図れていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約前に施設内を見学して頂き、本人や家族に困っていることや不安なことを伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での生活においてご家族様が不自由だった点や苦労した点、または入居するにあたっての希望等を聴取しています。また、こちら側からとして、預けっぱなしではなくご家族と一体となって支援していく旨を伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設のケアマネや、地域包括支援センターと連携を取って、対応をしています。本人の希望や家族の希望を考慮しながら、場合によっては「お試し期間」も設けながら、入居のタイミングを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同居者であるという基本的な考えを尊重し、お互いに協働しながら和やかに生活できるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携し、入居者をともに支えるスタンスを築き上げています。そのスタンスがより強固になるように、ハウレンソウ(報告・連絡・相談)、そして新しい提案などを積極的に行う姿勢を大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてからも馴染みの人や物の関係を重視しており、これまで使っていたものの持ち込みや、家族、友人の訪問、外出等、馴染みの関係継続の支援に努めています。	コロナ禍で、家族や友人との面会がなかなかできない中で、大切な人との関係が途切れないように、電話やメールなどを活用し関係性を継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地のよい居場所や席順の工夫をしたり、良好な入居者間の関係が保てるよう職員が間に入り声かけをしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した方、退去された方に対してケアマネやソーシャルワーカー、ご家族訪問を行い、継続的な関係を目指しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向は記録し、ケアに反映させています。思いの表出が困難な方に対しても、本人の立場に立った視点で検討しています。また、面会時に家族からの思いを聞くようにし、職員間で共有しています。	本人の生活への意向の把握は、日常の関わりの中で聴き取り、アセスメント用紙、申し送りノートに記入し、さらに毎月のミーティング報告で職員間で共有している。また、本人の思いをかなえる「夢プロジェクト」を実践している。日々の関わりの中で聴きとった「〇〇したい」を無理と決めつけずに、実現に向けて共に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後にかかわらず、情報を収集し、職員同士で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の気持ちを積極的に聞き、思いを確認しながら、一日の過ごし方などの把握をしていく姿勢を、大切にしています。また、常に状態を観察し詳細を個別の記録に残すようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い、必要に応じて都度介護計画の見直しを行っています。	毎月のミーティングで、利用者様個々の状態等を確認し支援方法を考え、ケア記録から状況を把握し話し合っている。また、日々の生活状況の中からも支援方法を考え、見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の管理日誌や個人日報などの記録を積み重ね、引継ぎの際に共有化したり、相談するなど現状に即したケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の行動の背景を理解するようにし、その上で柔軟な支援を行う姿勢を大切にしています。可能性を引き出し、柔軟な対応をすることが良いケアとなることも多く見られるため、いろいろ試す形をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年新型コロナウイルスの影響により、利用者を公共の施設や人が集まる商業施設等へは外出させていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関だけでなく、そのほかにも相談できる医療関係者を確保しています。必要な際は時間を問わず、相談をしています。また、歯科は必要に応じて往診をお願いしています。	入居時にかかりつけ医の選択について説明し、利用者、家族の希望する医療機関を利用している。受診には職員が付き添い、適切な医療が受けられるように医療機関と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護ステーションとの連携により、さらなる協力体制を確立しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との関係作りは日ごろから行っています。入院や退院、今後の生活に対する不安に対しても、積極的な面会などを通じて払拭できるよう努めています。また、入居前に健康診断をお願いし、感染症等事前に防げるよう心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして重度化した場合、どこまでできてどこまでができないかを明確化し、ご家族様に提示できるようにしたいです。現時点では、できるだけご本人、ご家族の要望に沿った支援が行えるよう話し合いを繰り返し行い、よりよい環境で過ごしていただける様努めています。	入居時に「医療、介護に関する希望」を書面にて説明確認を行っている。ホームでできる事を説明し、早い段階で主治医、家族と相談し、本人にとっての最善策を支援している。	重度化について、「どこまでできてどこまでができない」かを、口頭ではなく明文化されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、職員の見える箇所に掲示してあります。また、ヒヤリハットを普段からたくさん出すことで、事故発生時のシミュレーションや事故を未然に防ぐことを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会の防災訓練と自主避難誘導訓練を行っています。また、食料品、水、排泄用品等を準備しています。	非常災害マニュアルの備えがあり、年2回、昼間、夜間それぞれを想定した火災訓練を行っている。また、必要最低限の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を意識した声かけや、ケアを心がけています。また、入居者同士が打ち解けやすい雰囲気作りや生活の中で選択の場面を作るよう努めています。	利用者の自立支援、自己決定力を尊重し、日常のあらゆる場面で、利用者を選択してもらっている。排泄時の誘導では尊厳を損なわない言葉がけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが、自分で決めたり希望を表せたりすることを尊重し、それらを促すような声かけや対応を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や大まかな日課、受診予定等は予定されていますが、入居者の体調や都合に合わせて調整しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの床屋へ行き続けたり、パーマをしてみたりと、今までと同じようにおしゃれが出来るように支援しています。また、外出できない方には月1回の訪問理美容サービスの支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を玄関に掲示案内しています。また、月に1度は利用者からのリクエストを聞き、一緒に料理をしています。畑で取れた野菜を天ぷらにしたりして収穫の喜びも楽しんでいただいています。	普段は、主に職員が調理し、配膳や下膳などは利用者と共に行っている、恵方巻、シチュー、カレー等、利用者も調理から参加する機会がある。食べる楽しみとして施設職員が目の前で握り寿司を提供、各季節に応じた行事食の工夫をしている。また、コロナ禍ではテイクアウトを活用した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯や咀嚼、嚥下状態は人それぞれなので、その人に合った食事を提供しています。嗜好品として、コーヒーやレモンティー等選択してもらえよう数種類の飲み物を常時用意してあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。自立された方、そうでない方といらっしゃいますが、その人にあった物品、やり方を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としています。各個人の排泄パターンを把握し、排泄のサインを見逃さないよう声かけしています。オムツを使用する際は、本人の快適な排泄支援、疾患の予防、経済的負担、直近の状況を会議で話し合い、家族と相談して導入しています。	排泄記録を基に排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、一人ひとりに応じ個別に支援している。パットなどの使用については、本人の排泄機能の状況に応じた物を選択し提案している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に対する意識を持ち、勉強会、ミーティングなどで取り上げています。必要に応じて、民間療法や医師の処方をお願いしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴日を基本としています。その日の体調や気分に合わせて、臨機応変に対応しています。また、季節感を感じて頂くためにもゆず湯や菖蒲湯をし、視覚、嗅覚でも楽しめるよう努めています。	入浴日や時間は決まっているが、順番を決めず本人の望むタイミングで支援している。その日の体調や気分に応じて、季節に応じた浴槽を演出したり、入浴時間がゆったりとリラックスできるよう、一人ひとりのペースに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や温度の調整、日中の活動の充実や眠剤の適正利用を行い、夜寝やすくなる支援を行っています。消灯時間などは特に設けず、個々の習慣を大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に確認できるように、ファイルに保管し、症状の変化の確認に努めています。受診後はミーティングで共有化し、必要に応じて勉強会を開催しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみや茶わん洗い、畑の収穫等職員と一緒にこなっています。また、入居者個人の得意なことを見出すよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルスの影響により入居者の外出は行えていません。	通常であれば、希望に応じてドライブ、買い物など外出の機会を作っている。今年度はコロナ禍のため実施できず、ホームの中庭や、天候と体調に応じて事業所周辺を散歩した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、家族様に依頼し、お金を所持、使用できるように支援しています。また、家族様へのお金を持つ、使うことの意義を理解していただけるよう、啓発活動も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙、面会の制限はありません。自ら電話がかけられない場合は、代わりに電話するなどの対応をしています。また、携帯電話、ネットの使用も制限していません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、玄関には、生活感や季節感を採り入れて、入居者が創作した作品の展示を飾っています。また、ベランダにてプランターでのお花植え等もしており、水やり等の役割も分担できるよう工夫をしています。	オープンキッチンのカウンターを挟み、居間、食堂とは分かれた共有空間だが、人目を気にせず自分のペースで作業できるスペースがある。また、玄関や居間・食堂には季節感のある飾り物があり、和やかで落ち着ける空間である。テレビの音、空調もほどよく調節されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を工夫したり、入居者同士のトラブル回避のため、状況を見て席替えをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、なるべく使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような働きかけをしています。また、家族の写真やホームでの写真を飾り、過ごしやすい空間作りを支援しています。	居室の窓は、安全性の配慮がありながらも、開閉がしやすい高さであった。家族の写真や利用者の好み、習慣に応じた小物が飾られているなど、安全安心に過ごせる工夫がある。室温も適温に管理され、廊下や共有スペースとの寒暖差もなく過ごせる心地よい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の清潔や衛生を保持し、薬剤等注意の必要な物は利用者の目の届かないところに保管している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム南砺星

作成日: 令和 3 年 3 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 (12)	家族にきめ細かなフォロー体制があることを口頭説明だけでしか行っていなかった為、利用者・家族への共通認識ができていなかった。	訪問看護事業所、クリニックのパンフレットを用意し、どのような体制でサポートしていくかを説明し、掲示板にも貼ることにより日頃から目にしていただける様にする。また、当施設においてのできることできないことを職員全体で共有、周知していきたい。	契約時にパンフレットを用いての協力体制機関の説明をし、どのようなサービスが受けれるのか等を提示する。また、施設においてどこまでできるかを契約書等に明文化し、理解しやすいよう改善していきたい。	3ヶ月
2	4(3)	請求書を郵送するときに、訪問できない家族のために運営推進会議の議事録・施設の活動をお便り(広報)を同封していない為、家族等に周知することができていなかった。	2か月毎の運営推進会議議事録、施設の活動報告を書面で報告できるようにする。また、普段の生活では見れない利用者の表情等を見て頂くことで認知症への関心、理解を深めていきたい。	不定期での活動報告は書面(写真も添付)にて行っていたが、2か月毎の運営推進会議議事録、施設の活動報告を書面で報告できるようにする。また、ご家族からの要望(どんなことが知りたいか)等も取り入れながら作成していきたい。	0.5ヶ月
3	6(5)	委員会議事録作成において、個々人の事案の記載がなく、見にくい点があった。	議事録フォーマットの改善、見やすさを重視し、誰が見てもわかりやすい議事録作成を目指す。	個人別での記録とし、職員の意見があった際に記載できるような欄を設け、出席できなかった職員に対しての周知方法として議事録に目を通したことのわかるサイン欄を作成する。	0.5ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。